News Release

ATZ221007_E_J

ARTIZON MUSEUM | ISHIBASHI FOUNDATION

報道各位

2022 年 10 月 7 日
公益財団法人石橋財団 アーティゾン美術館

パリ・オペラ座ー響き合う芸術の殿堂

2022 年 11 月 5 日[土] - 2023 年 2 月 5 日[日]

出品作品の作家名、タイトルと章構成を変更いたしました。

1

2

1. エドゥアール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》1873 年、石橋財団アーティゾン美術館

2. シャルル・ガルニエ《パリ・オペラ座（ガルニエ宮）のファサード立面図、1861 年 8 月》1861 年、フランス国立図書館
©Bibliothèque nationale de France

公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館（館長 石橋 寛）は、「パリ・オペラ座ー響き合う芸術の殿堂」を開催します。

パリ・オペラ座は、バレエやオペラの輝かしい殿堂としてよく知られた劇場です。ルイ 14 世によって 1669 年に設立されたパリ・オペラ座は、その歴史を通して台本作家や作曲家、美術家に、芸術的な進展や技術的な革新を可能にする表現を常に注文してきました。この展覧会では、パリ・オペラ座の歴史を 17 世紀から現在までたどりつつ、さまざまな芸術分野との関連性を示すことで、その魅力を「総合芸術」的な観点から浮き彫りにします。特に対象とする時期は、19 世紀から 20 世紀初頭。これはロマンティック・バレエ、グランド・オペラ、バレエ・リュスの時代にあたります。フランス国立図書館をはじめとする国内外の約 250 点の作品により、芸術的、文化的、社会的な視野からパリ・オペラ座の多面的な魅力を紹介し、その歴史的な意味を明らかにします。パリ・オペラ座と諸芸術との多様なつながりをテーマとする、これまでにない新たな試みです。

パリ・オペラ座とは？

フランスを代表する歌劇場。パリ 9 区の絢爛な建築は、19 世紀後半パリの近代化の一環として計画され 1875 年に完成、設計者の名に由来しガルニエ宮（オペラ・ガルニエ）とも呼ばれます。ルイ 14 世によって 1669 年に設立された王立音楽アカデミーを前身とし、350 年以上の間、台本作家や作曲家、美術家に、芸術的な進展や技術的な革新を可能にする表現を常に注文してきました。1989 年にバスティーユ歌劇場（オペラ・バスティーユ）が完成し、現在二つの劇場でバレエ、オペラの古典から現代作品までを上演しています。

パリ・オペラ座ガルニエ宮内観
© Jean-Pierre Delagarde / Opéra national de Paris

【本展の見どころ】

1. フランス国立図書館やオルセー美術館などから約 200 点の作品が来日

フランス国立図書館音楽部門には、パリ・オペラ座で上演した作品を中心に、フランスのオペラ、バレエ関係の資料が多く収蔵されています。本展はフランス国立図書館の所蔵する約 200 点をはじめ、オルセー美術館の所蔵するエドガー・ドガ《バレエの授業》など国内外から集結したオペラ座に関連する作品を紹介します。

3

4

3. フランソワ=ガブリエル・レポール《悪魔のロベール、第 5 幕第 3 場の三重唱》1835 年、フランス国立図書館
©Bibliothèque nationale de France
4. エドガー・ドガ《バレエの授業》1873-76 年、オルセー美術館
Photo © RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Adrien Didierjean / distributed by AMF

2. 「総合芸術」的な観点からオペラ座の魅力を紐解く

ルイ 14 世の時代の舞台装飾家や衣装デザイナーから、19 世紀のグランド・オペラの作曲家やロマンティック・バレエのダンサー、さらには 21 世紀の演出家に至るまで、パリ・オペラ座が、あらゆる分野の創造者と連携して、いかにして自らの芸術方針を築いてきたのかを明らかにしていきます。

5

6

7

5. 《『タンホイザー』初演のポスター》1861 年、フランス国立図書館 ©Bibliothèque nationale de France
6. レオン・サモイロヴィッチ・バクスト《『シェエラザード』でのイダ・ルビンシュタインの髪飾り》1910 年頃
フランス国立図書館 ©Bibliothèque nationale de France
7. クリスチャン・ラクロワ《『翼に賭ける命』のための衣装デザイン》1987 年頃、フランス国立図書館 ©Bibliothèque nationale de France

3. オペラ座を描いたマネの 2 作品を展示

19 世紀フランスの画家エドゥアール・マネ（1832-1883）は、パリ・オペラ座を題材とした作品を制作しました。アーティゾン美術館ではそのうちの一点を所蔵しています。本展は、ワシントン、ナショナル・ギャラリー所蔵作品とともに展示される貴重な機会となります。

8

9

8. エドゥアール・マネ《オペラ座の仮面舞踏会》1873 年、ワシントン、ナショナル・ギャラリー
9. エドゥアール・マネ《オペラ座の仮装舞踏会》1873 年、石橋財団アーティゾン美術館

【その他の出品作品】

10

11

12

13

14

10. ジャン=アントワーヌ・ヴァトー《見晴らし（ピエール･クロザ公園の林越しの眺望）》1715 年頃、ボストン美術館
11. ジャン=バティスト・カルポー《ダンスの精霊 No.2》1872-1910 年、オルセー美術館　Photo © RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Tony Querrec / distributed by AMF
12. ジャン=バティスト=エドゥアール・ドゥタイユ《オペラ座の落成式、1875 年 1 月 5 日》1878 年、オルセー美術館（ヴェルサイユ宮殿に寄託）Photo ©RMN-Grand Palais (Château de Versailles) / Gérard Blot/ distributed by AMF
13. マルク・シャガール《オペラ座の人々》1968-1971 年、ポーラ美術館 ©ADAGP, Paris＆JASPAR, Tokyo, 2022 Chagall® C3919
14. アルフレッド・エドワード・シャロン《『パ・ド・カトル』を踊るカルロッタ・グリジ、マリー・タリオーニ、ルシル・グラーン、ファニー・チェリート》1845 年、兵庫県立芸術文化センター　薄井憲二バレエ・コレクション

【章構成】

序曲：ガルニエ宮の誕生

第 I 幕：17 世紀と 18 世紀
（1）「偉大なる世紀」の仕掛けと夢幻劇（2）音楽つきの「雅宴画」(フェート・ギャラント)
（3）新古典主義の美的変革

第 II 幕：19 世紀[1]
（1）ル・ペルティエ劇場（2）グランド・オペラ（3）ロマンティック・バレエ
（4）装飾職人と衣装画家　＊パリの観劇をめぐって

第 III 幕：19 世紀[2]
（1）グランド・オペラの刷新（2）ドガとオペラ座（3）劇場を描く画家たち
（4）ヴァーグナーの美学　＊作家とオペラ座　＊ジャポニスムとオペラ座

第 IV 幕：20 世紀と 21 世紀
（1）バレエ・リュス（2）近代芸術とオペラ座（3）画家・デザイナーと舞台美術
（4）演出家と振付師のオペラ　＊映画とミュージカル

エピローグ：オペラ・バスティーユ

【開催概要】

展覧会名：　パリ・オペラ座ー響き合う芸術の殿堂
主　　催：　公益財団法人石橋財団アーティゾン美術館
協　　力：　フランス国立図書館
後　　援：　在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本
会　　場：　アーティゾン美術館 6・5 階展示室
会　　期：　2022 年 11 月 5 日[土] - 2023 年 2 月 5 日[日]
開館時間：　10：00 ー 18：00（毎週金曜日は 20：00 まで）＊入館は閉館の 30 分前まで
休 館 日：　月曜日（1 月 9 日は開館)、12 月 28 日ー1 月 3 日、1 月 10 日
入館料（税込）：日時指定予約制（2022 年 9 月 6 日［火］よりウェブ予約開始）
ウェブ予約チケット 1,800 円、当日チケット（窓口販売）2,000 円、学生無料（要ウェブ予約）
＊当日チケット（窓口販売）はウェブ予約枠に空きがある場合に販売します。
＊中学生以下の方はウェブ予約不要です。
＊この料金で同時開催の展覧会を全てご覧頂けます。

＊開催情報は予告なく変更となることがあります。

監　　修：　三浦篤（東京大学大学院教授）
担当学芸員：賀川恭子、田所夏子

アーティゾン美術館　〒104-0031　東京都中央区京橋 1-7-2
Tel: 国内 050-5541-8600　海外 047-316-2772（ハローダイヤル）www.artizon.museum

アクセス：JR 東京駅（八重洲中央口)、東京メトロ銀座線・京橋駅（6 番、7 番出口)、東京メトロ・銀座線/東西線/都営浅草線・日本橋駅（B1 出口）から徒歩 5 分

同時開催

石橋財団コレクション選　特集コーナー展示

アート・イン・ボックス
―マルセル・デュシャンの《トランクの箱》とその後

4 階展示室では石橋財団コレクション選をご紹介すると同時に特集コーナー展示を設け、マルセル・デュシャンの《トランクの箱》（1952 年）を中心に《グリーン･ボックス》や《ホワイト・ボックス》等デュシャンのボックス作品に加え、これに影響を受けてその後展開した箱の形態の作品を展観いたします。

左：マルセル・デュシャン《マルセル・デュシャンあるいはローズ・セラヴィの、または、による（トランクの箱）シリーズ B》1952 年, 1946 年（鉛筆素描）© Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2022 C3919
右：マルセル・デュシャン《彼女の独身者たちによって裸にされた花嫁、さえも（グリーン・ボックス)》1934 年　© Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo 2022 C3919

会場：アーティゾン美術館 4 階展示室
担当学芸員：新畑泰秀
会期：2022 年 10 月 25 日[火] - 2023 年 2 月 5 日[日]
休 館 日：月曜日（1 月 9 日は開館）、11 月 4 日、12 月 28 日ー1 月 3 日、1 月 10 日

＊10 月 25 日[火]―11 月 3 日[木]についてのご注意事項
上記期間は 4 階展示室のみ公開、5 階・6 階展示室は休室します。
入館料：日時指定予約制（2022 年 9 月 6 日［火］よりウェブ予約開始）
・ウェブ予約チケット 500 円
・当日チケット（窓口販売・ウェブ予約チケットが完売していない場合のみ）500 円
・学生無料（要ウェブ予約・中学生以下予約不要）
＊この料金で、４階展示室の石橋財団コレクション選のみをご覧いただけます。

【広報用図版】

掲載時には必ずクレジットをご記載ください。また、文字載せやトリミングはご遠慮ください。
＊著作権保護期間中の 7 と 13、同時開催の作品図版のご使用については下記広報課宛にご相談ください。

■上記以外の図版は、下記サイトからダウンロードしていただけます。
広報用画像データのダウンロードはこちら
https://www.artpr.jp/artizon/paris-opera

本プレスリリースについてのお問合せ先
アーティゾン美術館　広報課　松浦・小川・宮武

＊一般の方のお問合せ先は 050-5541-8600　（ハローダイヤル）　です。
E-mail: publicity@artizon.jp
TEL: 03-6263-0132（広報課直通・誌面への掲載はご遠慮ください。）
〒104-0031　東京都中央区京橋 1-7-2